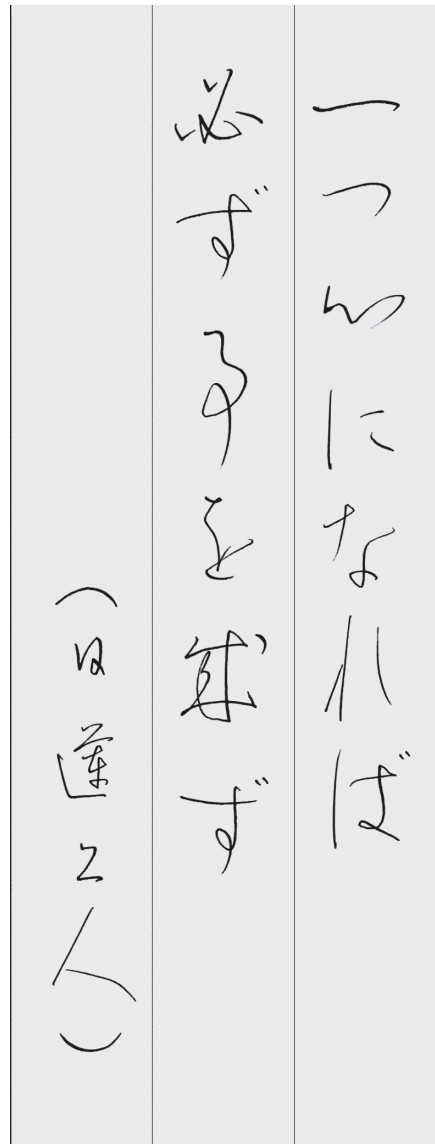


憲照先生の手本ア・ラ・カルト(33)
(à la carte)

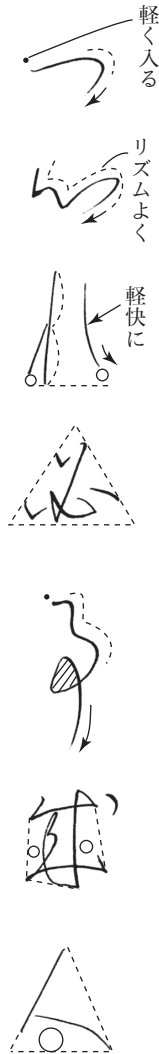
締切り 九月二十二日(必着)

昭和50年5月



つけペン・墨汁使用

〔解説〕



◎本会は、今年で創立六十八周年を迎えます。まだまだ世の中には、新型コロナウイルス禍の影響で、世界中が不安の中にいます。しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。

◎今年の短期特別課題は、昨年同様『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。

お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。同一課題を楷・行・草の順で繰り返し、掲載していく予定です。

◎多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。

◎創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

★一つ：(書体＝草書)

日蓮上人

鎌倉中期の僧

「百人千人なれども、一つ心なれば必ず事を成す」が全文。

一人の人であっても二つの心があれば、目的とする事の精神が定まらず、あれこれ乱れ、迷いを生じてしまい何事も成就しません。それに対し、たとえ百人・千人の心であっても、目的が一つに定まっていれば何事も成就するのである。

〔作品の出し方〕

▼今回も硬筆部だけに限ります。全員本会段位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。

▼用具は自由ですが、線美を追求するためには、つけペン・墨汁をお薦めします。

▼出品制限の対象とはなりません。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。

※不明な点は無記入でも結構です。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

▼月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様にお願いします。

準初段から六段まで

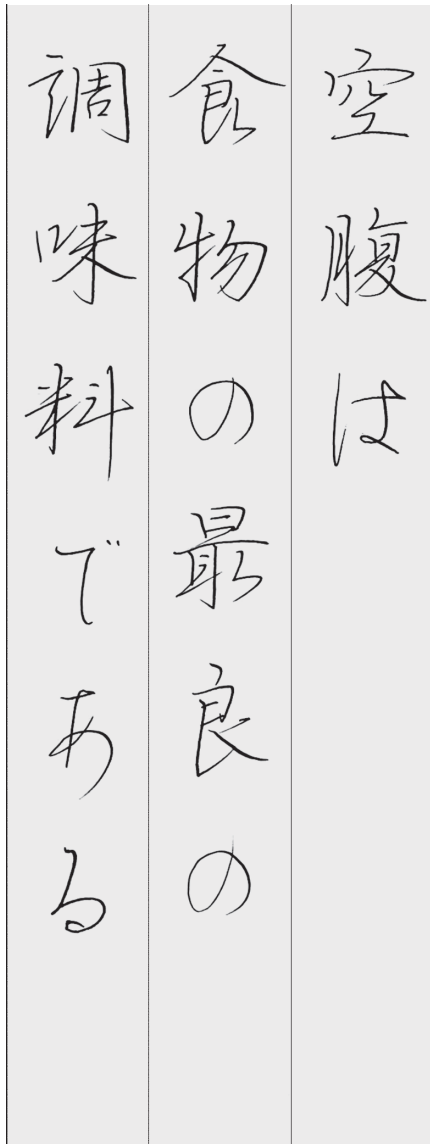
新入から1級まで

〔解説〕

〔読み〕空腹は 食物の最良の 調味料である



▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

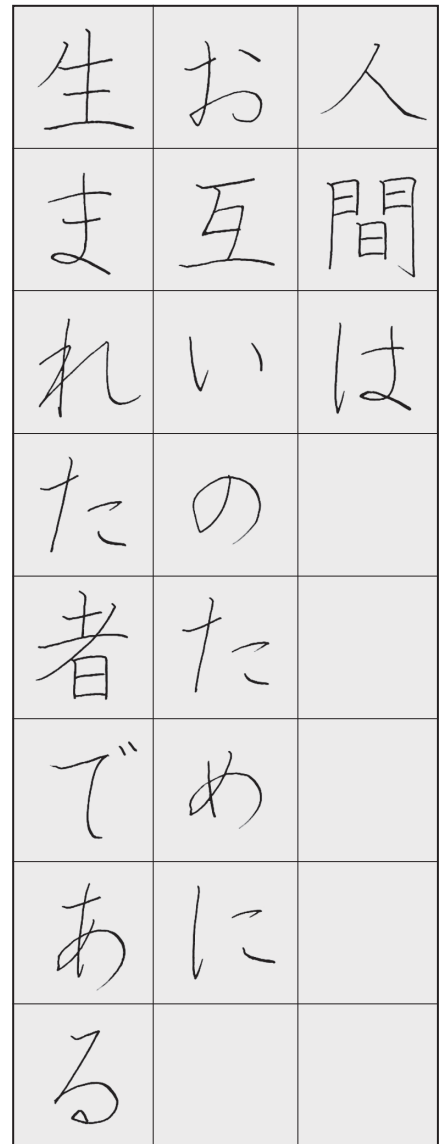
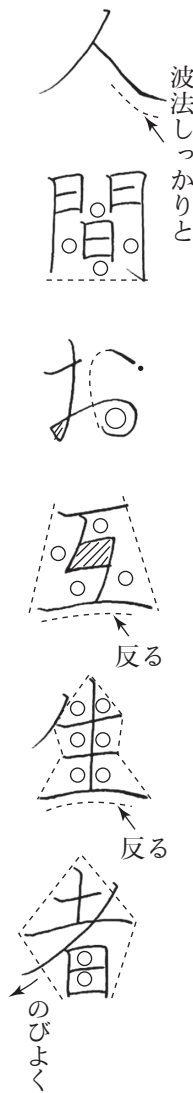


新井龍峰書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



古田瑞苑書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

- ◆10月課題予告(楷書)
怠惰は錯の如し
労働よりも
消耗を早める
- ▼教範・書範 行草または草書
- ▼師範 行書

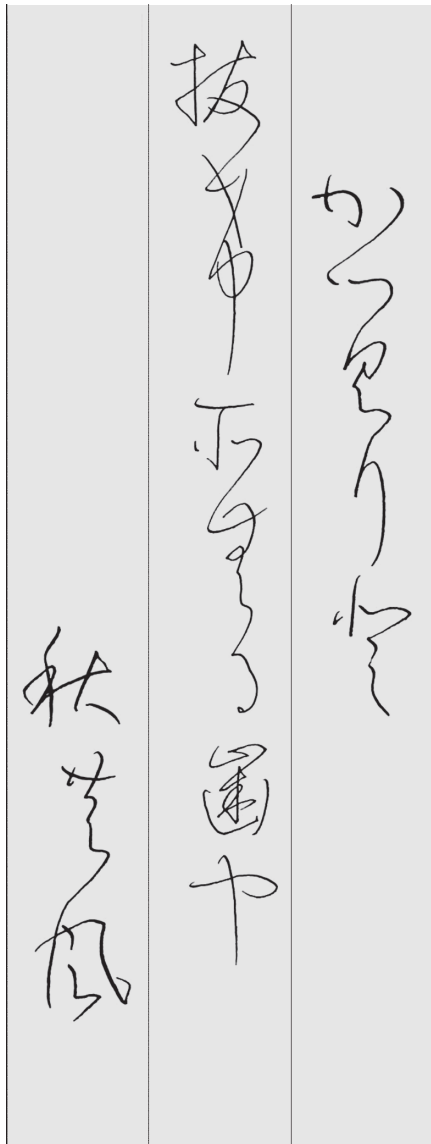
★空腹は：(書体 行書)
キケロ(前一〇六、前四三)
古代ローマの政治家、法律家、哲学者であった彼は、名言を数多く残しています。その中の一つがこの言葉です「日本のことわざの「空腹にまじい物なし」と同義語です。どんなまじいものでも空腹ならおいしく食べられると言うのですが、どうすればいつも食事のたび空腹でいられるのでしょうか。キケロが言うそれは「よく働け、肉体労働者でない場合はよく運動をせよ」と言っているのです。

◆10月課題予告(行書)
自分の仕事を
持った者は
しあわせだ
★人間は：(書体 楷書)
マルクス・アウレリウス(二二、三八〇)
ローマ皇帝アントニヌス・ピウスの養子になり帝位についた彼は哲学者としてもすぐれており「自省録」を書いています。その中にこの言葉があります。「人間はお互いのために生まれてきたのだから、たとえ相手が著にも棒にもかからない様な人間であっても、腹をたてたり軽蔑したりしてはならない。根気よく相手を教え導くか、がまんしていかなければならない」と言っています。

準初段から六段まで

新入から1級まで

がつくりと抜け初むる齒や秋の風
川(州) 具 登 希 所 無 農



た なか き こう 書
 田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

がつくりと抜け初むる齒や秋の風
川(州) 久 利 東 努 介 曾 阿 支



た なか き こう 書
 田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

がつくりと抜け初むる齒や秋の風
すきやまんぶう 杉山杉風

〔句解〕がつくりと齒が初めて抜けてしまった。急に衰えの感じられるこの身に、秋風が侘びしく吹いている。

〔鑑賞〕松尾芭蕉宛書簡に杉風は、

「六月中より相煩ひあやうき体に罷なり候ふところ、本間道悦老療治にて助かり、頃日は養生薬たべ申すばかりにて本復仕り候。」とあって、夏から秋に大病をしたことがわかる。年齢も四十三歳、もともと病弱でもあって、一層身の衰えを感じたにちがいない。

〔古筆参考〕

東と 东 东 东 东
 登と 登 登 登 登
 希け 希 希 希 希
 曾そ 曾 曾 曾 曾
 農の 農 農 農 農

〔解説〕「級」の方の(へ)の縦線は、中心より左の方から斜めに書き、中心で終わるように書く。「段」の方の(や)の縦線は、横線の真中あたりのすぐ上から、真っ直ぐに書くことよい。

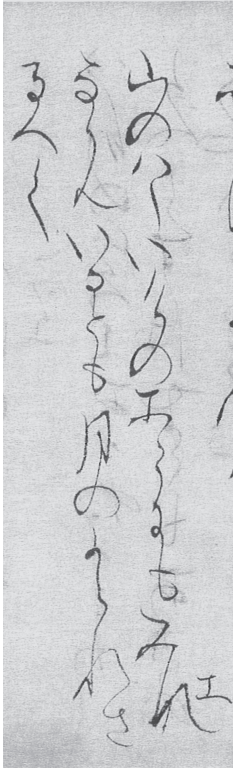
◆10月課題予告

岩鼻やここにもひとり月の客
いわな 岩鼻

(向井去来)
むかい きよらい

〔古筆参考〕

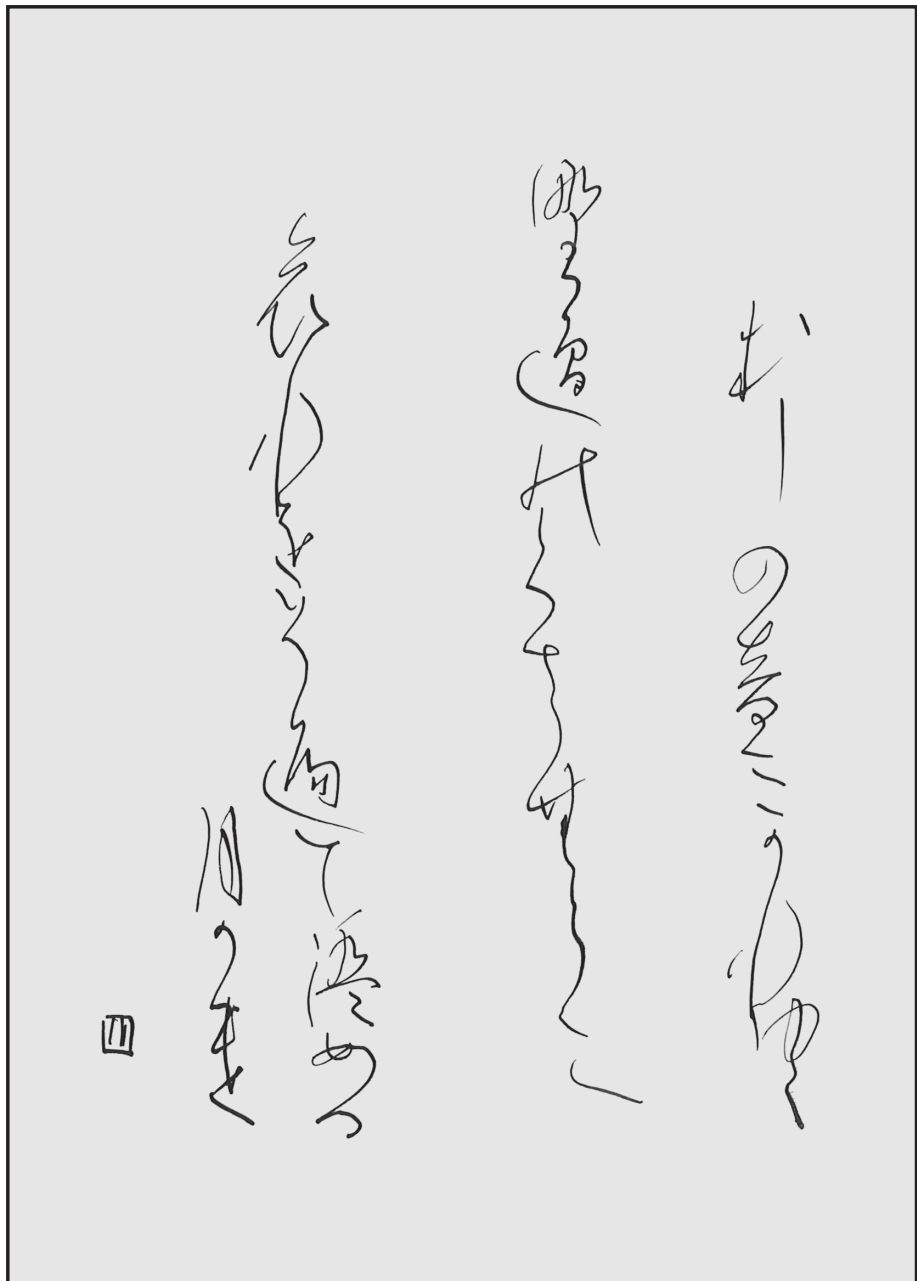
なかつかさしゅう
中務集



山のは、いけのそこにもみな
な、んいるとも月のかくれざ
るべく

締切り 九月二十二日（必着）

築瀬舟香書

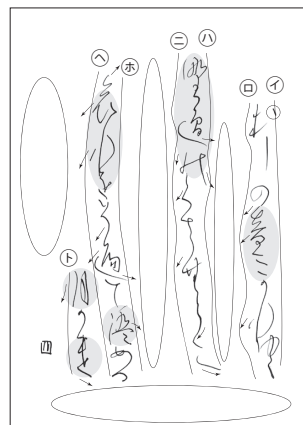


虫の音にかれゆく野辺の草むらに
あはれをそへてすめる月かけ

〔歌意〕虫の音が繁くなると共に、次第に枯れてゆく野辺の草むらに、更に秋のあわれをそえて月が澄んだ光をおとしているよ。

〔出典〕新潮日本古典集成

〔解説〕



- ・ ①と㊦、①と㊧、①と㊨、①と㊩、①と㊪、①と㊫、①と㊬、①と㊭、①と㊮、①と㊯、①と㊰、①と㊱、①と㊲、①と㊳、①と㊴、①と㊵、①と㊶、①と㊷、①と㊸、①と㊹、①と㊺、①と㊻、①と㊼、①と㊽、①と㊾、①と㊿
- ・ 〇 余白大切。
- ・ 指向往性大切。

◆10月課題予告

岩間ゆく木の葉わけこし山水を
つゆ洩らさぬは氷なりけり

締切り 9月22日(必着)

天高く馬肥ゆる秋と申しますが、
他人事ではなく、ダイエットに
励んでいる毎日です。一人では
続きそうもないウォーキングも
愛犬となら頑張れそうです。
貴女もご一緒にませんか。

天高く馬肥ゆる秋と申しますが、
他人事ではなく、ダイエットに
励んでいる毎日です。一人では
続きそうもないウォーキングも
愛犬となら頑張れそうです。
貴女もご一緒にませんか。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙はがき課題はがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具はがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

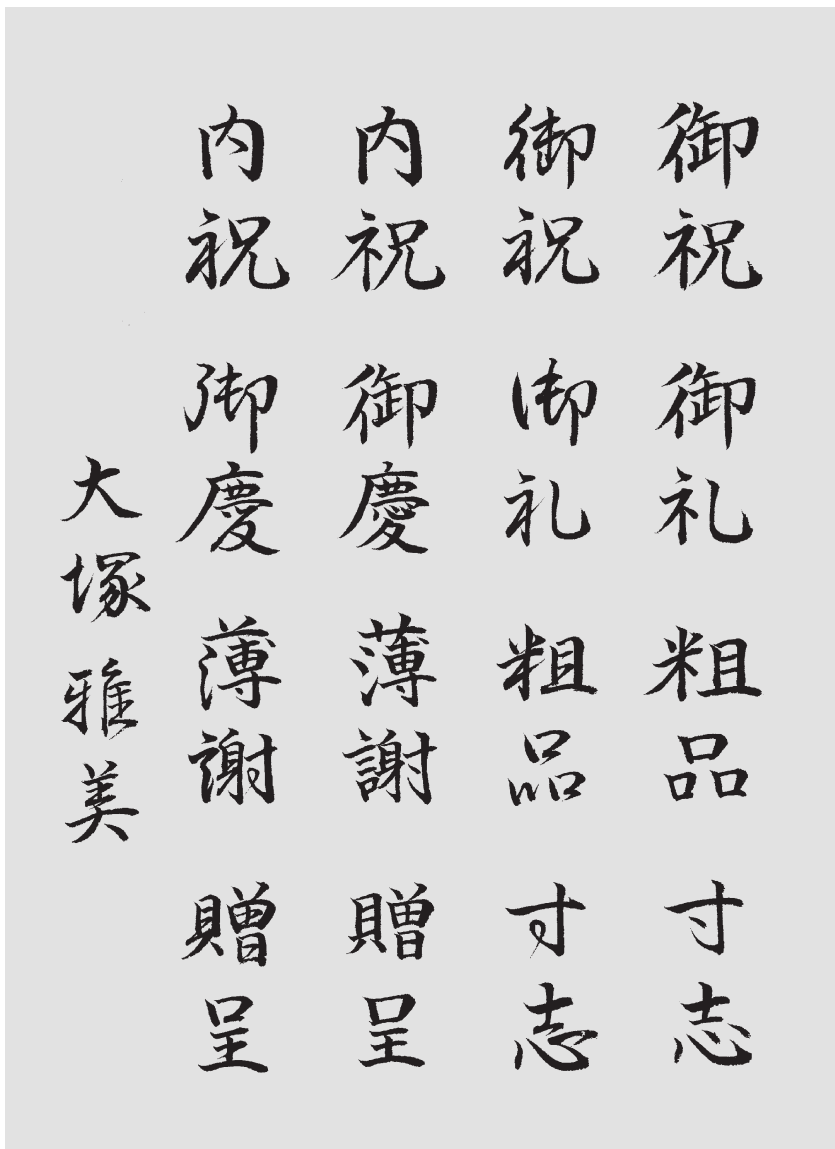
エジソン発明の蓄音機の祖型は、
スズ箔を巻いた銅の円筒だった。

長崎県対馬市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

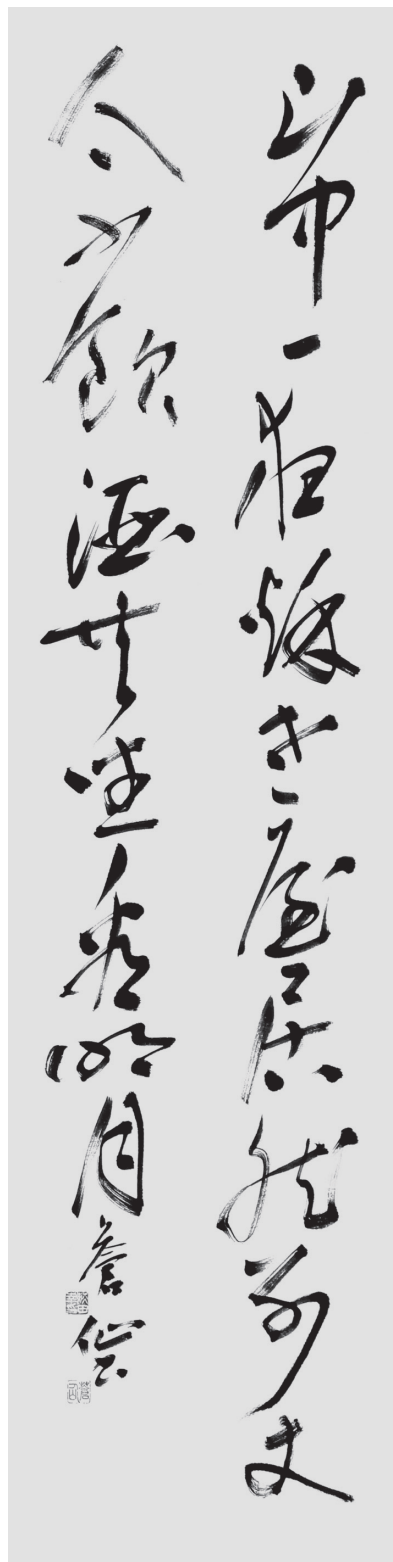
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

書 香 梅 藤 伊



締切り 九月二十二日 (必着) 半切 (一三六 cm × 三五 cm)

荻田蒼仙書

山中一夜秋

老屋居然別

丈人不飲酒

共坐看明月

〔大意〕秋の山中のあ
ばら屋で何となく別れ
たが、なぜかその時二
人とも酒を飲まずに、
座って一緒に明月を眺
めていた。

初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔条幅解説〕

今月は五言絶句(二十字)に挑戦してみましょう。
イメージチェンジを図り、いろいろと回数と枚
数を重ねました。そしてズラリと吊り下げて選
びました。最後の作がよいと思っていたところ、
過剰意識が目につき、中間頃に書いたのを選びま
した。形もさることながら線を鍛えましょう。角
度そして起筆の入り方が大切だと思います。

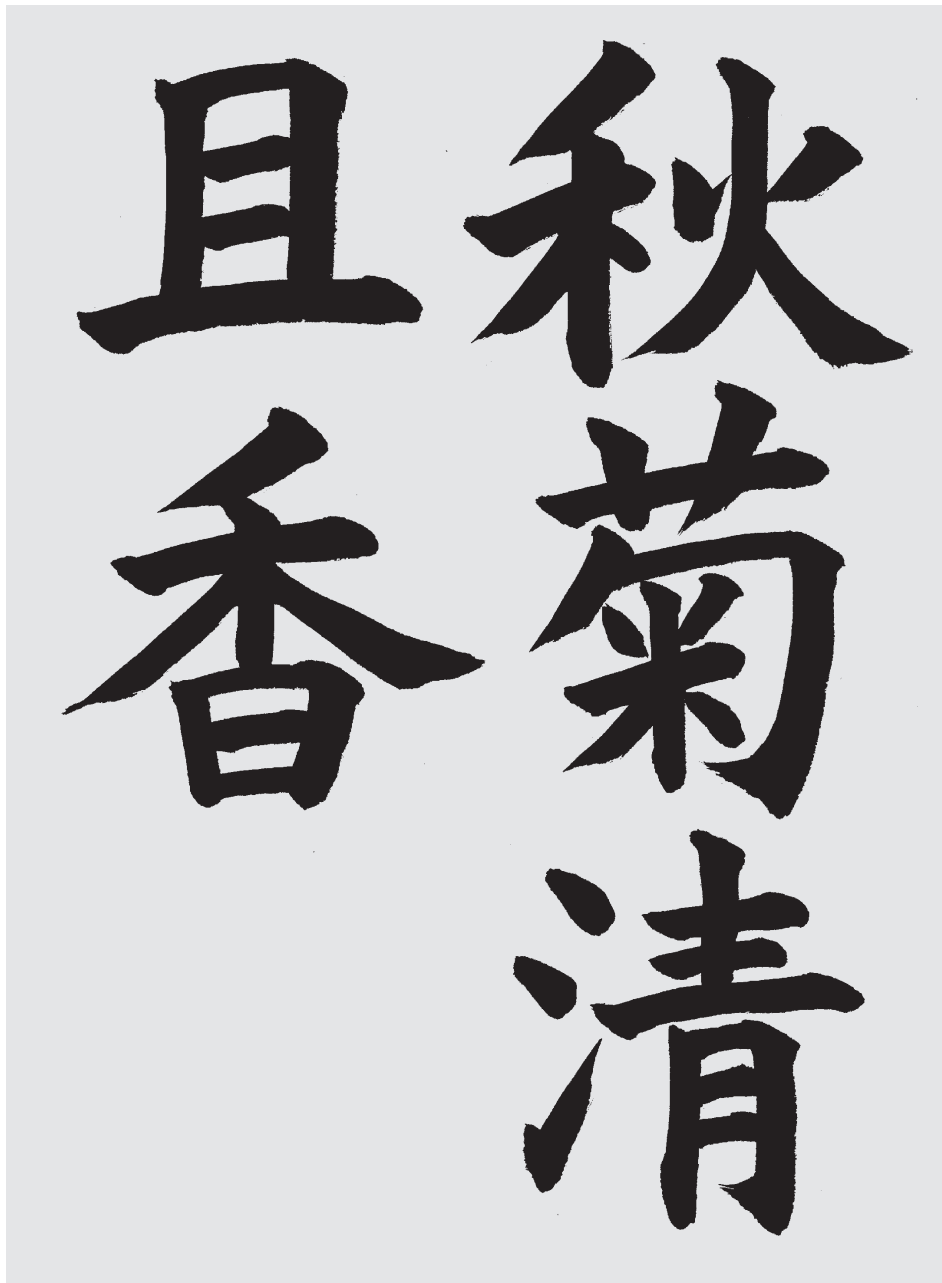
御祝 御礼 粗品 寸志
内祝 御慶 薄謝 贈呈

(ご自分の氏名)

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわり
ます。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(楷書)

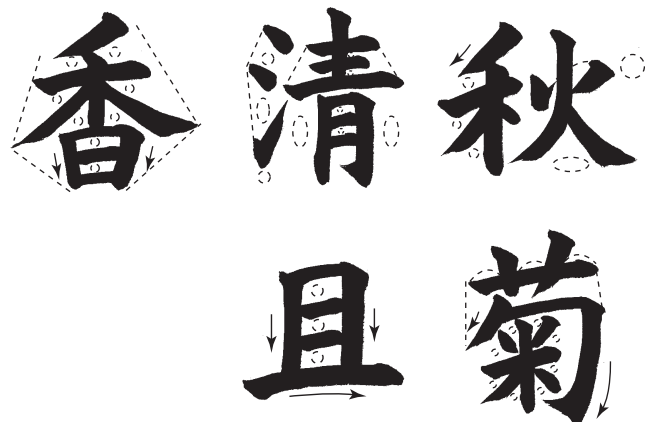


清水翠芳書

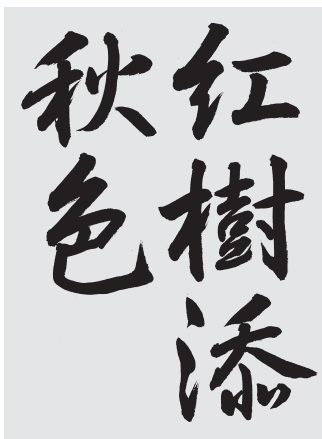
秋菊清香

〔大意〕秋になって咲いた菊は清くかつ香を放つ。

〔解説〕



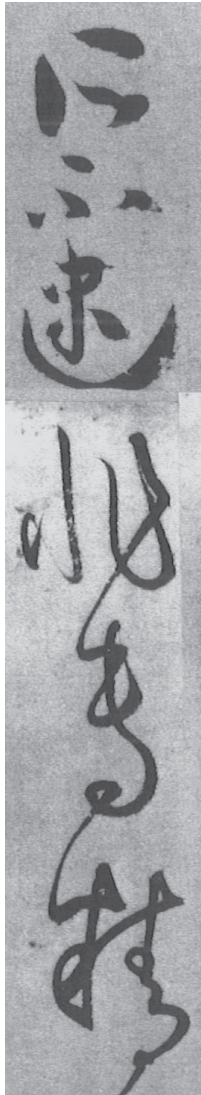
◆10月課題予告(行書)



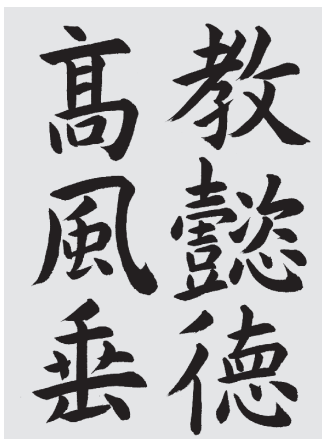
準初段から師範まで



須田一葉臨



所
不
速
非
專
精



◆10月課題予告

※文献によって字体が異なる場合があります。

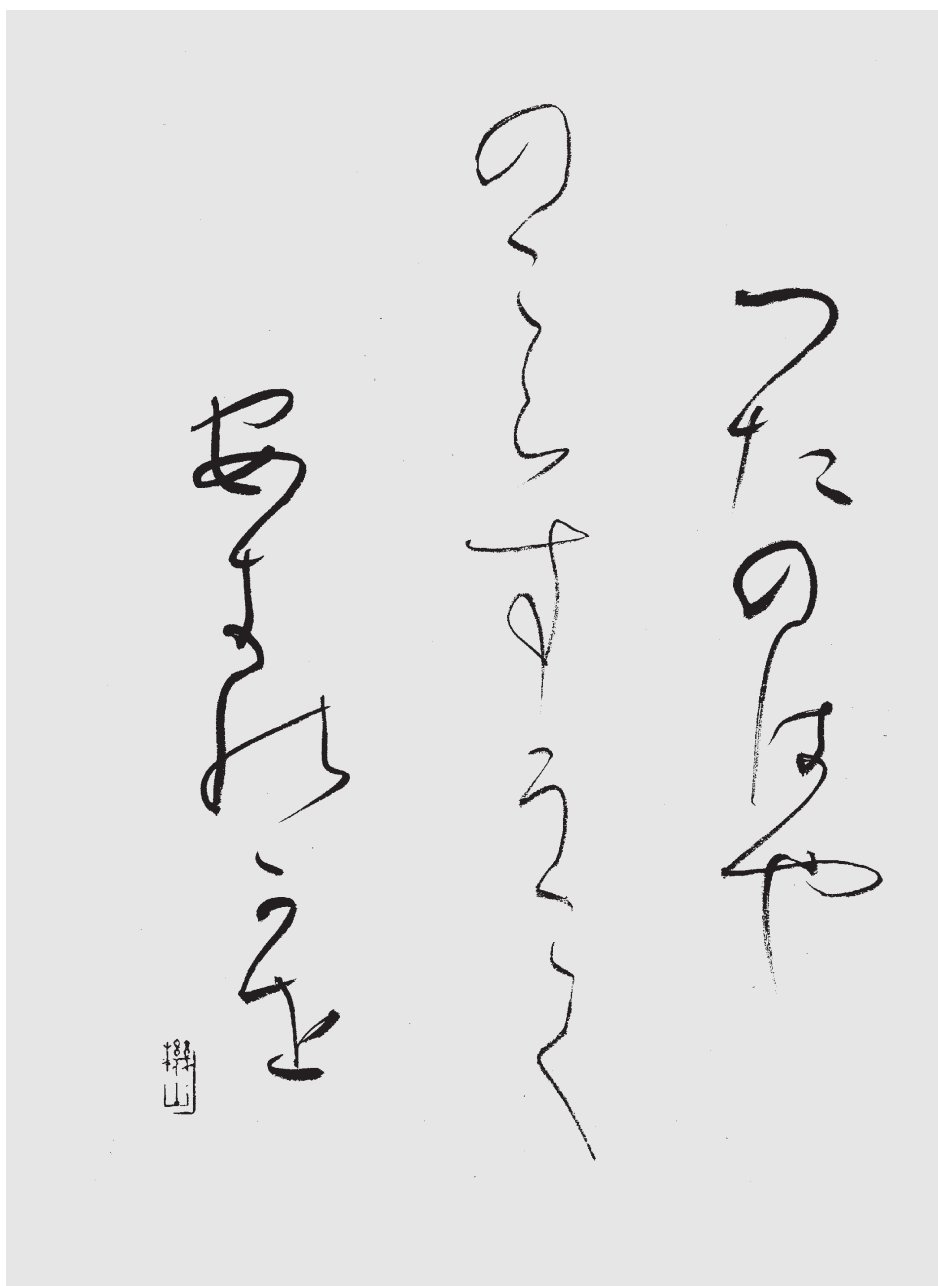


〔解説〕

〔出典〕 書譜
〔筆者〕 孫過庭（六四八？〜七〇三？）
〔読み〕 速およばざる所ところ（有ありて）精せいを專もっぱらにするに非あざれば（なり）。

新入から1級まで

浅井機山先生書



葛の葉や残らず動く秋の風

山本荷兮

〔句意〕

大木にからんだ葛の葉が紅葉し、峰を吹きわたる秋風に「葉のこらず動いている」の意。

◆10月課題予告

鶴の影舞ひ下りる時大いなる

〔解説〕

まず全体を見てみましょう。

上5は、2字、3字の連綿。

中7は、3字、単体、3字の連綿。

下5は、3字、2字の連綿。

各行の高さの変化があります。

それでは、1行ずつ見ていきましょう。

「つたのはや」

「つた」、たっぷり含墨した筆を反故紙でちよっとぬぐってから、書き出します。

「つ」の出だしは突いて（蔵鋒）、じっくり書き出し、次第にハヤク、曲線はユックリ、回り切ったら長い連綿線はハヤク「た」の第1画まで引きまします。突き当たった角はさっと止まったかと思っただ瞬間に、短い横線をハヤク引きます。

「のは」、連綿線は短い。ほぼ直結しています。「は」は少し右に傾けて動きを作り、「はや」、長い連綿線ではないで、「や」ものびのび書いています。「Slightly」

この行では長い連綿線はありません。短いとスッキリするし、書きやすいです。字形の傾きもほとんどありません。

「安支能可世」

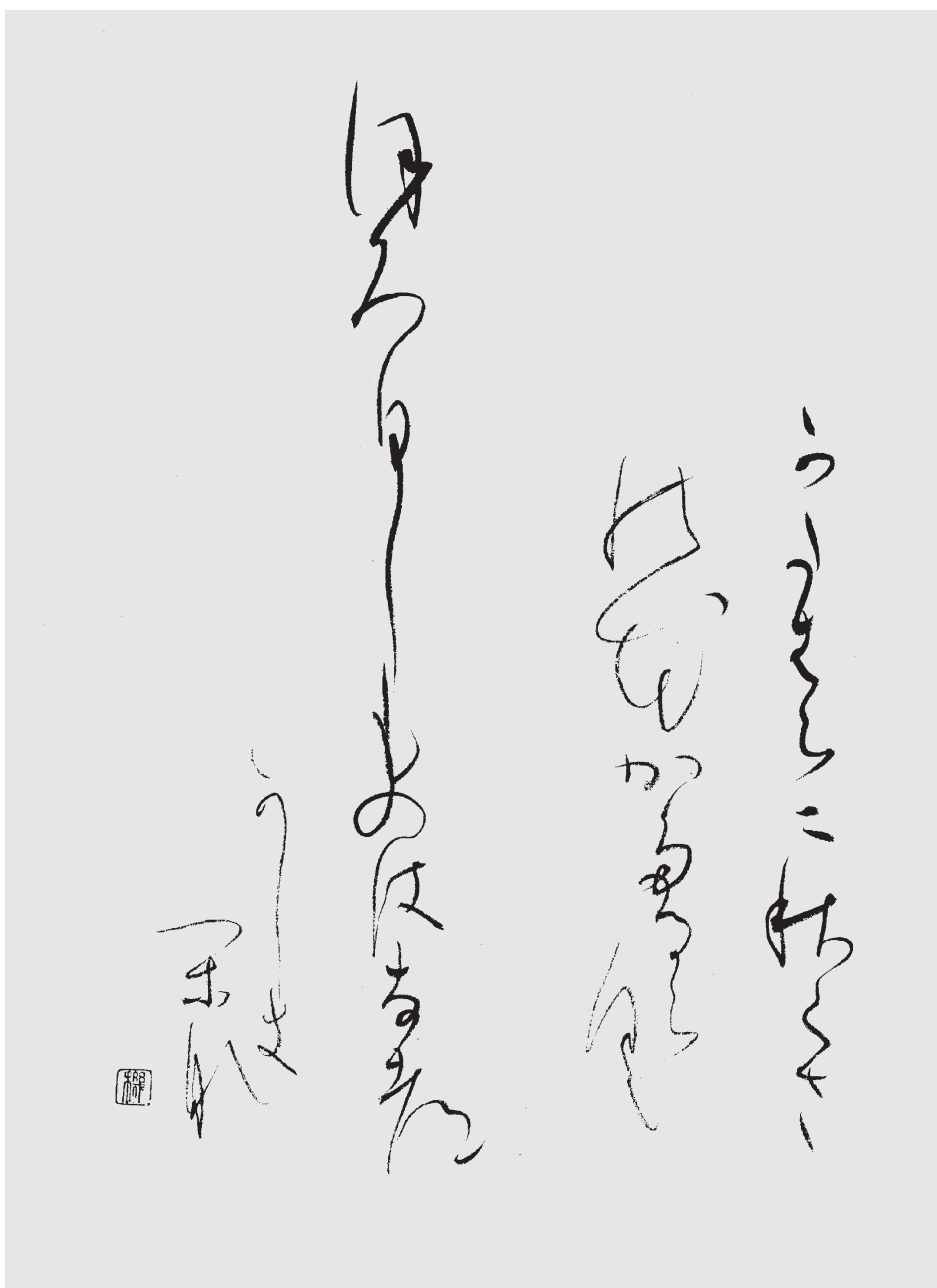
「安」、第1画が左に傾いています。

前2行を安定させるための書きぶりです。もちろん水平に近い書き方も安定しますが、「つ」と同じにならないように。

かな書きではウゴキが大切ですから、字形を傾けたり、デフォルメしな

準初段から師範まで

浅井機山先生書



可多者 二
かたはらに秋くさの花かたるらく 具

保日
ほろびしものはなつかしきかな

若山牧水

〔歌意〕

わたしのかたわらで秋草の花が語りかける。滅んだものはすべて懐かしいと、私は思うのだ。

◆10月課題予告

鴈なきてさむき朝けの露霜に

やのの神山いろづきにけり

〔解説〕

新料紙に書いてみます。

まず全体を見てみましょう。

長いメインとなる行が、真ん中よりやや左寄りに書かれています。それを取り囲んで右左に配しています。

左行は右2行の行頭を受け、短い2行と雅印を受けて全体を安定させます。さて、1行ずつ見ていきましょう。

「可多者ら二秋くさ」

「可」、小さいがじっくり書き出して、「多者ら」の連綿は少しずつ速度を増して、一息ついて、「二」をじっくり書き、「秋」で横広にして、「くさ」は上の流れを捉えながら最後の点を打ちます。

「能花か多るら具」

「能花」、大きく速度を上げて書き、点は慎重に打ちます。

「か多るら」、華やかな上を受け、「多る」ではしっかり受け止めて、軽やかに「ら」につなぎ、「具」はハヤク↓オソクして2行をまとめます。

「保る日しものは奈都」

全体のメインとなっていますから、「保る日し」は華やかに。「ものは」は格好よく字間を密にして、「都」は最後ちょっと右へ逃げて行の揺らぎを作ります。

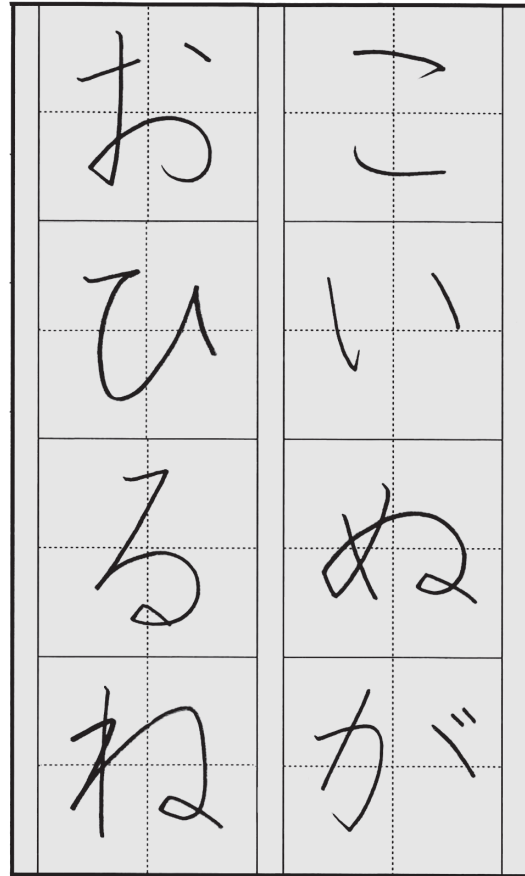
「可し支」

「閑那」

「雅印」

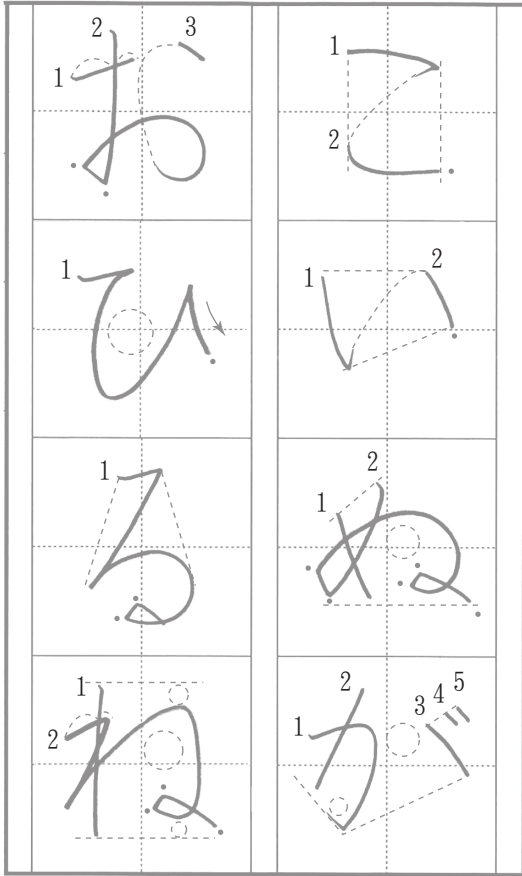
全体を安定させるいい位置に。

よ
う
年



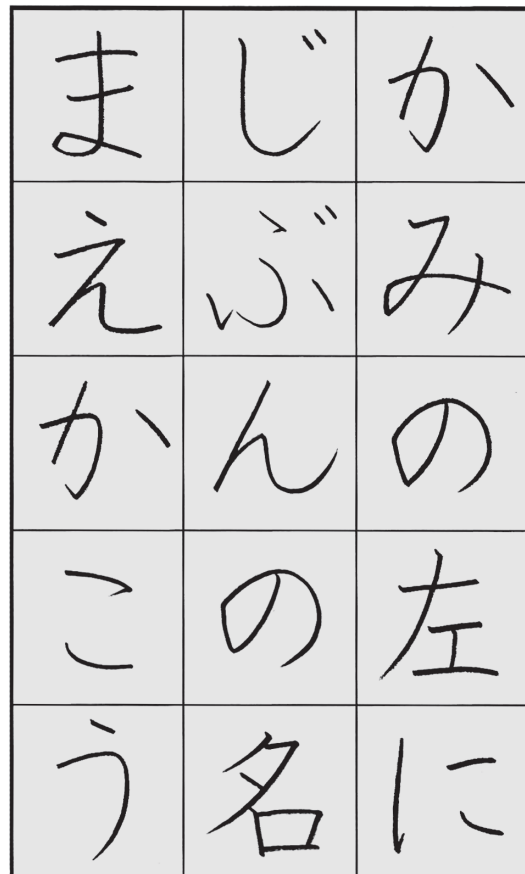
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかき)

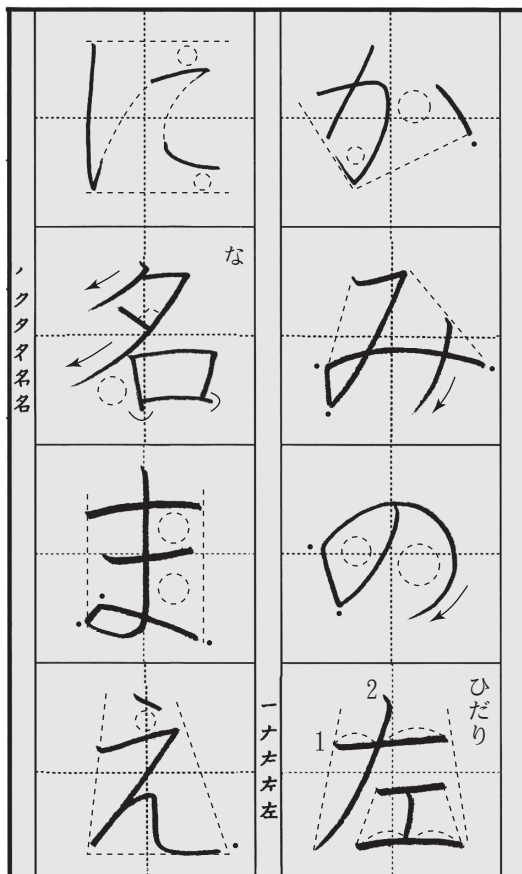
小
一
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準
初
段
以
上

新入〜1級



幼年〜小三年まで
三宅容玉書

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

く	上
買	下
の	の
た	ふ

新入〜1級

ふ	下	母
く	そ	と
買	ろ	店
つ	い	で
た	の	上

小二年
準初段以上

工	戸
具	た
箱	な
を	の

新入〜1級

具	戸	台
箱	だ	に
を	な	上
取	の	つ
る	工	て

小三年
準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

	コ尸尺扌扌扌 借借借		ひる
	ノイ亻亻亻 休休休		やす
	一十才木本 るるる		ホン

新入1級

約	本	昼
束	を	休
し	借	み
た	り	中
よ	る	に

小四年

準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

	カ ノハク父 果果果		ちち
	一才才育育 実実実		そだ(てた)
	ノ曲曲曲曲 酒酒酒酒		ホウ
	一才才育育 造造造		フ

解説(よく見て習いましょう)

で	豊	父
酒	富	が
を	な	育
造	果	て
る	実	た

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

〈用具 自由(黒色に限る)〉

給	キユウ 一ニキキ私私	私	わたし
食	シヨク 一丁子羽羽班	班	ハン
当	トウ コヨ羽羽習習	羽	ヨク
番	バン 一月月周周週	週	シユウ

解説(よく見て習いましょう)

給	は	私
食	習	た
当	週	ち
番	か	の
だ	ら	班

小六年

(全員)

に	寄	近
公	り	所
園	と	の
散	一	お
策	緒	年

中二・三年

(行書)

来	中	精
し	国	進
て	よ	料
き	り	理
た	渡	は

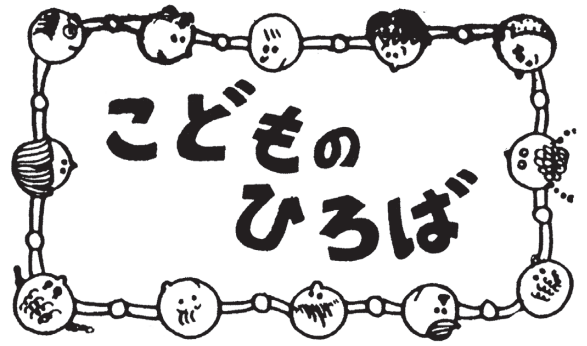
中一年

(行書)

▼小三年以下の課題 まつ 松 うら 浦 しゅう 秋 きん 琴 書

花 <small>はな</small>	コ	赤 <small>あか</small>	横 <small>よこ</small>	通 <small>つう</small>
が	ス	・	に	学 <small>がく</small>
い	モ	白 <small>しろ</small>	は	路 <small>ろ</small>
っ	ス	・		の
ぱ	の	ピ		
い		ン		
		ク		

◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 9月22日 (必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 やす 保 だ 田 すい 翠 えん 苑 書

伝 <small>つた</small>	感 <small>かん</small>	日 <small>ひ</small>	祖 <small>そ</small>	敬 <small>けい</small>
え	謝 <small>しゃ</small>	頃 <small>ころ</small>	父 <small>ふ</small>	老 <small>ろう</small>
た	の	の	母 <small>ぼ</small>	の
い	気 <small>き</small>		を	日 <small>ひ</small>
	持 <small>も</small>		訪 <small>たず</small>	に
	ち		ね	
	を			

◎お手本はつけペン使用



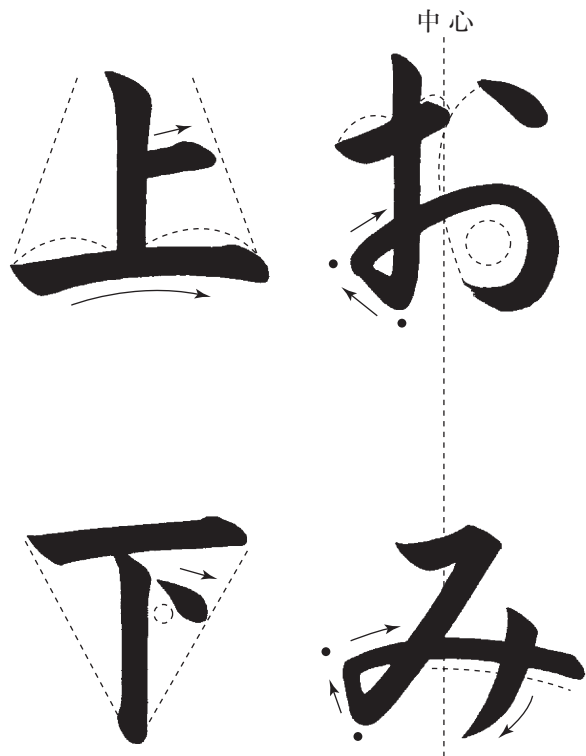
◇作品の出し方

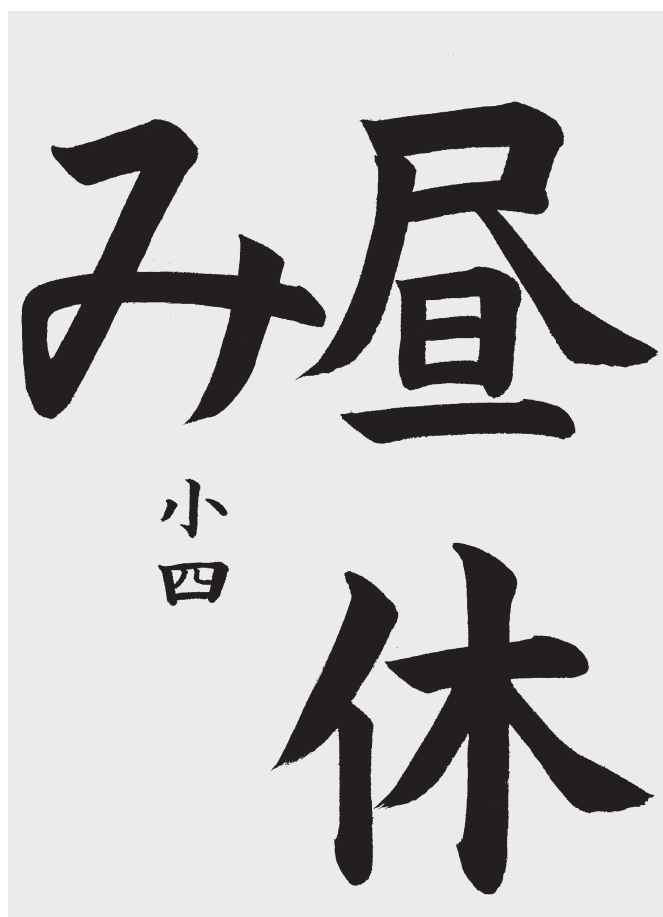
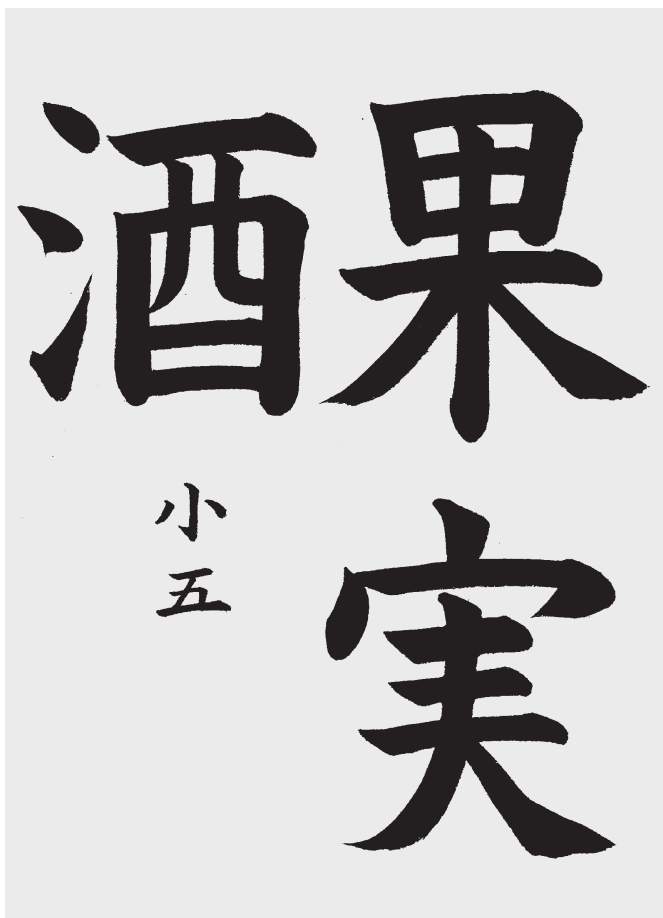
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





幼年〜小二年
酒井智仔書





小三〜小五年
水野碧友書

中二
三

散公
策園

小六

当給
番食

小六
中二・三年

玉樹
小華書

進

給

中一

料精

散

食

理進

策

精

※行書では画のつながりに注意しよう。